

平成30年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上させる。</p> <p>②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会 	<p>習熟度別授業やAL型授業を通して、授業への理解度が高まったと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p><u>84%</u> A</p>	<p>成果：プロジェクターやタブレット等のICT機器を活用した授業に対する教員のスキル向上が図られてきていると共に、AL型授業の研究も深められてきていることで、高評価を得た。</p> <p>課題：ICT機器の利用率を更に増加させること。</p> <p>改善策：授業研究会等で話し合った事や、教科指導訪問での指導主事からのアドバイスの内容を全職員に周知する。また、授業研究会を校内で活発に行う雰囲気づくりや体制づくりを行う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談 	<p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p><u>70%</u> B</p>	<p>成果：個別面談と連動した学年集会や「コア輪島」等の取組が活性化したことに加え、習熟度別学習課題の工夫によって、多くの生徒が主体的に学習している実感を抱いていると考えられる。</p> <p>課題：学習習慣が身についていると感じている生徒の割合は多いが、学習時間があまり増加していないこと。</p> <p>改善策：習熟度別学習課題の更なる工夫と、学習時間調査の結果を提示する方法や提示内容を工夫し、学習時間を増加させる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 3年間を見通した指導計画の作成と実践 * 習熟度別指導の記録 * 個別面談 * 進路自主学习 	<p>内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p><u>96%</u> A</p>	<p>成果：きめ細かな個別面談を通して、就職指導や進学指導を継続した結果、ほとんどの生徒が内定企業や合格(出願)学校に満足している。</p> <p>課題：「ある程度満足している」ではなく、「満足している」との回答がここ3年間で72%→59%→60%と変化してきた。進路先に対する満足度をより高めるために、個々の適性に応じた指導を一層充実させる必要があること。(昨年、一昨年は12月調査、本年は2月調査)</p> <p>改善策：生徒との個別面談に加え、保護者懇談等を通して保護者と緊密に連携して、個々の生徒に最も適した進路先を選択させることで、進路先に対する満足度を向上させる。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業についてはきめ細かい対応がみられ評価できるが、国語の学習時間が英語や数学より少なく、国語の学習時間を増やす工夫が望まれる。 ・主体的に学習する集団づくりとしての「コア輪島」の取組を、更に進めて外部にも周知してほしい。 		
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習課題や学習時間調査の掲示を工夫することにより、学習時間の増加を図り、国語の学習時間の増加に繋げる。 ・AL型授業を推進し、学校説明会や広報等で「コア輪島」の状況について報告する機会を増やす。 		

平成30年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2 人間力を向上できる学校 ①学校行事を通し、仲間を大切に、他者を思いやる心を育成する。 ②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。 ③両科生徒が協働した事業を実施し、他者と切磋琢磨することにより自己研鑽できる生徒を育成する。	* チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会	学校行事への取組を通して他者を思いやるが多くなったと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<u>89% B</u>	成果：いろいろな学校行事を通して、一生懸命頑張ることで、クラスの団結力が上がり、他者を思いやることのできる生徒が多くなった。1年生で思いやるが多くなったと考える生徒の割合は、中間評価では84%であったが、地域学習発表会後の今回は91%と上がった。 課題：生徒の自己評価は高いが、学校行事以外の場面でも他者を思いやる行動がより一層とれるよう指導を工夫すること。 改善策：学校行事で育成された思いやりの心が一過性のものにならないように、日頃からHR等でも指導する。
	* 部活動 * ボランティア活動	部活動などの課外活動に積極的に取り組むことのできたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<u>85% B</u>	成果：「できた」「ある程度できた」と考える生徒の割合が85%を越え、肯定的な回答が多数を占める結果となった。 課題：「できなかった」「あまりできなかった」と考える生徒は15%で、次年度は10%未満を目標値に据えてもよいと考える。 改善策：対外試合等を通して士気を高め、適切な休養日を設定しながら心身共に健全な指導を続ける。また、否定的な生徒の理由を明確にするため、アンケート等を実施する。
	* 全校挨拶運動 * 登校指導	TPOに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>93% A</u>	成果：PTAや河井小学校と連携した登校時の挨拶運動を実施し、部活動の生徒や生徒会の役員を中心に積極的に取り組む様子が見られた。 課題：登校時の挨拶運動から、来校者への挨拶励行や日頃の身だしなみにも注意し、規律ある授業や学校生活へと繋げていくこと。 改善策：生徒会執行部等と連携し、TPOについて生徒が主体的に考え分析し、より良い学校づくりについて模索する。
学校関係者評価委員会の評価		・良好な結果となっているが、生徒達の根気や気力が低下傾向にあるのではないか気がかりである。 ・人間力を向上させるには、深みのある感動が必要であるため、生徒が深く感動できるような取組を行ってほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・生徒の根気や気力が低下しないように生徒の自己肯定感を高める指導を行い、適時生徒アンケートを実施する。 ・学校行事に生徒がより主体的に参画できるような運営を行っていくことで、本校の魅力向上に努める。		

平成30年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3. 地域と共に成長できる学校</p> <p>①小中学校等との協働研究事業を推進する。</p> <p>②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。</p> <p>③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域と連携したグローバル人財を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会 	<p>協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が</p> <p>A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p><u>61%</u> B</p>	<p>成果：本校の教員が市内の小中学校の授業を参観したことにより、授業の状況や児童、生徒の状況について理解を深めた。</p> <p>課題：授業を参観するだけでなく、研究協議会に参加するなどして、意見交換を図ること。</p> <p>改善策：教科の研究会を開き、お互いの学校での取組の情報交換を図る。また、中学校の先生方に高校の授業にも参観していただく機会を増やす。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 挨拶指導 * 中高学習交流 	<p>小中学校との生徒間交流事業の実施回数</p> <p>A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 3回以下</p>	<p><u>6回</u> B</p>	<p>成果：中学生との学習交流会や中学校でのキャリア教育講演会、挨拶指導、合同トレーニングに参加した生徒は、地元の生徒に「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、達成感を得た。また、体験入学では、生徒の中学生への接し方が良く、好印象を与えた。</p> <p>課題：小中学校からの要望も加味し、生徒が意欲的に参加できるように内容の充実を図ること。</p> <p>改善策：小中学校との連絡調整や情報交換を行って、継続事業や新規事業の内容についても検討する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> * 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア 	<p>課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができた生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p><u>88%</u> B</p>	<p>成果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まった。地域調べ学習と成果発表会では、地域の課題解決に向けて深く探究し、地域に対する課題意識を深めることができた。</p> <p>課題：地域の課題やその解決策について、より深く探究しようとする意識を高めること。</p> <p>改善策：様々な取組後・活動後の事後指導を充実させ、課題解決への意識の深化を図る。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校との連携には意義があり、地域に根差した学校として、今後の連携事業の充実を期待する。 ・総合学科は校外での実習活動が多く、地域に貢献していることをより一層コマーシャルしても良いと思われる。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校との連絡調整や情報交換を行い、継続事業や教科研究会などの新規事業について検討する。 ・地域の課題解決についてより深く探究しようとする意識を高める指導を行い、活動内容の広報にも努める。 			

平成30年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
4. 多忙化改善を積極的に実現する学校 ①ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る。 ②タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。 ③会議の縮減や行事の精選等による業務の効率化を図る。	* 行事の精選・省力化 * 会議方法の工夫	昨年度より多忙化改善への意識が高まり、効率よく業務に取り組むことができたと考える教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	<u>91% A</u>	成果：会議方法の工夫や業務の効率化により、教員の意識改革が少しずつ図られ、ワークライフバランスを考えるようになってきた。また、タブレットの活用により、職員朝礼がなくても、連絡がスムーズに行われるようになった。また、職員会議でもタブレットの活用でペーパーレスとなった。 課題：タブレット活用はもちろん、それ以外の分野でも業務の効率化や多忙化改善に向けて取り組むべき項目について考察すること。 改善策：教員へのアンケートや聞き取りにより、今後の取組について検討する。
	* 部活動年間計画 * 学習時間調査	生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して A 100日以上 B 90日以上 C 80日以上 D 80日未満	<u>62日 D</u>	成果：部活動においては概ね時間が守られているが、朝の不注意による遅刻0の日数については、目標に大きく届かなかった。 課題：時間の大切さやタイムマネジメントの意識が低い生徒が多く、1人で十数回遅刻する生徒もいるなど改善に時間がかかること。 改善策：遅刻をしないことの長所や、遅刻をすることの短所などを明示し、時間を守る意識を高める。保護者とも協力し粘り強く指導して予防する。挨拶運動を実施したりクラス毎で遅刻回数をカウントしたりするなどして抑止する。
	* 定時退校日の設定 * 時間外勤務時間調査	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A 15%以上減少した B 10%以上減少した C 5%以上減少した D 5%未満の減少であった	<u>11%減少 B</u>	成果：4月から1月までの10ヵ月間における教員一人当たりの月平均時間外勤務時間が、昨年度の59時間に対し、本年度は53時間と11%減少した。 課題：4月から10月までの前期の時間外勤務時間が多く、主たる年齢層が40歳代未満の若手で、部活動に割く時間が多いこと。 改善策：タブレットを使うことにより、連絡事項だけの会議等は廃止したり、自作の教材を教科内で共有したりし、効率的な勤務ができるように職場環境を整えていく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の期待に応えるためにも、不注意により遅刻した生徒への指導を十分に行ってもらいたい。 ・社会のスマートフォン使用に対する考え方も変化しており、学校としての対応も工夫していく必要がある。 ・学校の多忙化について、その改善により一層努めていってほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の生徒が遅刻を繰り返すことが多いため、粘り強い指導を継続していく。 ・スマートフォン使用の利点と欠点を理解し、スマートフォンと共生する社会の在り方についての指導の工夫に努める。 ・教員のワークライフバランスに対する意識を高め、業務の効率化により一層努める。 			